

しょうれん 力障連「わ」かい 報ほう

http://challenged-catholic.net/ No.85 2018.12.18 発行

二〇一八年十二月十八日発行（毎週火曜日）AJU増刊一三三九八号 一九七九年八月一日 低料第三種郵便物承認 定価一〇〇円

目次

巻頭言に代えて 顧問司教 前田万葉枢機卿	1
横浜全国大会を終えて（大会御礼）日本力障連会長 江戸徹	3
第13回力障連横浜全国大会を終えて 大会実行委員長 久保肇	4
雨のち晴れ 横浜大会実行委員会事務局長 横井圭介	5
皆に感謝！ 神様に感謝！ 金沢教会（横浜） 清水勝一郎	7
力障連全国大会 山手教会（横浜） 坂口育子	8
第13回日本力障連横浜全国大会に参加して 久保田忠郎（名古屋教区）	10
日本カトリック障害者連絡協議会第13回総会報告	14
第13期第1回役員会報告	15

巻頭言に代えて

見えるよう聞こえるように待降節

日本カトリック障害者連絡協議会を支える会
会長 前田 万葉 枢機卿

主の平和

待降節を迎えると周囲では、一段の寒さとクリスマス商戦が賑やかさを増しますが、皆様には日頃より聖務にご尽力いただいておりますことに、心より感謝とお礼を申し上げます。

また、日本カトリック障害者連絡協議会（以下力障連と称す）には温かいご理解とご支援をいただき心よりお礼申し上げます。

力障連は、1981年ヨハネ・パウロ二世がわが国への初めてのご訪日を機に、当時の全国の障害者団体のリーダーが集い、その翌年に力障連を結成し満36年を迎えました。今年10月には、横浜教区において梅村司教様のご指導の下に、「お互いの弱さを認め合い 共に生きよう」をテーマに、第13回全国大会・総会を750名以上の参加者がつどい、横浜教区の多くの信徒の見事なボラ

ンティア支援で横浜大会は盛会裏に終え
ました。総会では江戸徹会長を再任し新しい
活動方針も認められ、大会の最後には次回3
年後の開催地長崎教区の紙崎神父様にバトン
を渡し、3年後の再会を約束して横浜大会の
幕を下ろしました。

私も力障連顧問司教になって初めて総会
に参加しました。横浜大会には北海道から
鹿児島に至る障害を持つ信徒の参加があり、
9つの分科会でも熱心な議論が交わされ、力
障連の持つ意義を改めて認識しました。

特に印象に残ったのは力障連が全国の教会
にアンケートを送り33%の回答をいただき
ましたが、その回答の信徒数と障害者の比率
は1.1%という実態でした。しかしながら
国連では世界人口と障害者比率は約10%と
いう指針から考えますと、この1.1%という
数字はあまりに低く、障害者実態が把握され
ていない状況に日本の教会の障害者福祉に対
しての姿勢が見られ、カトリックの司教団を
中心に力障連も含め、教会全体で真剣に取り
組まなければならない大きな課題であること
を学びました。

力障連では、ミサへの「完全参加」をテー
マに今後も取り組みを進め、各教区の中に



障害を持つ仲間たちの相談相手となる組織
づくりを目指しています。しかし、そのため
には熱意ある多くの人材と教会の支援とネッ
トワークが必要です。

再任された江戸会長の下に総会で議論のあ
った取り組みがスタートしますが、力障連で
は全国の教区とのネットワークがなく、その
ため頻繁に出かけていけるだけの資金もあり
ませんが、無い無いづくしの中でこの3年間
も一所懸命頑張ってきて来ました。

私は力障連の顧問司教として、また、
昨年度より力障連を支える会の会長として、
全国の小教区の皆様、また修道会をはじめ
諸団体の皆様に、力障連を障害者と共に支え
ていただけますようお願いしたところ、93
件803,419円のご協力をいただき、10月の
横浜大会・総会席上で報告をさせていただきました。
皆様の温かいご支援に心より感謝申
し上げます。

今年も全国の教会、修道会、学校、保育・
幼稚園、福祉施設等諸団体の皆様から、年間
5,000円程度をご支援いただけたら、力障連
の活動が更に充実し福音宣教に資するものと
お願いする次第です。

最後になりましたが、全国の皆様が待降節
を有意義に過ごし良きクリスマスをお迎えで
きることを心よりお祈りいたします。

神に感謝

郵便局振替口座番号：00830-6-45785

加入者名：力障連を支える会

よこはませんこくたいかい お
横浜全国大会を終えて

かみさま わたし とも
神様は私たちと共にいる!!

にほん しょうがいしゃれんらくきょうぎかい
日本カトリック障害者連絡協議会

かいちょう えど とおる
会長 江戸 徹

しゅ へいわ
主の平和

がつ か にち しゅ めぐ ゆたか たいかい
10月20日・21日、主のお恵み豊かな大会

かいさい が開催できましたこと、ご臨席賜りまし
かいたまわ りんせき
た前田枢機卿様はじめ開催地横浜教区の
まえだすうききょうさま かいさいちよこはまきょうく
うめむらしきょうさま じっこういん みなさま じんりよく
梅村司教様、実行委員の皆様のご尽力により
ぶ せいだい かいさい しゅうりょういた こと ところ
無事に盛大に開催、終了致しました事を心よ
り感謝申し上げます。

ねんまえ さつぱろたいかい つぎ かいさいち ほうこく
3年前の札幌大会では次の開催地の報告が
でき よこはまきょうく じっこういん みなさま みじか
出来ず、横浜教区の実行委員の皆様には、短
じゅんびきかん なか かくしきょうく まわ たいかいかいさい
い準備期間の中で各小教区を回り、大会開催
のPRも含め活動いただきましたことに、お
わ 詫びとともにあらためて御礼申し上げます。
こんかい ぶ ながさききょうく ひ つ で
そして今回は無事に長崎教区へ引き継ぎが出
きましたことに、まずは安堵致しております。

たいかい うめむらしきょうさまみずか しゅわ
大会ミサでは梅村司教様自ら手話ミサをさ
しんぶさまがた しゅわ
れ、神父様方も手話をされていて、力障連と
ねん はたら みの ひと じっかん
して36年の働きの実りの一つと実感いたし
ました。

また、大会ミサ献金331,586円を力障連に
いただきましたことを皆様に報告致します。

こんご みの しょうれん みなさま とも かつどう
今後も実りのある力障連へ皆様と共に活動
すす おも
を進めていきたいと思ひます。

どうぞ、ご支援ご協力をお願い致します。
つか おも
お疲れになったと思ひます。くれぐれも、お
からだ たいせつ ほんとう
身体をお大切に。本当にありがとうございます
した。 感謝とともに



だい かい しょうれんよこはまぜんこくたいかい お 第13回力障連横浜全国大会を終えて

よこはまぜんこくたいかいじっこういんちよう 久保 はじめ
横浜全国大会実行委員長 久保 肇

だい かい しょうれんよこはまぜんこくたいかい ぶ じ しゅうりよう
第13回力障連横浜全国大会が無事に終了

じゅんび かいさい どうじつ おお かがた
し、準備から開催の当日まで、多くの方々が
おたが はな あ かせ きょうりよく
互いに話し合いを重ね、協力してくださ
たことを心から感謝しております。

かえ ねん がつ しょうれんえど
ふり返ると、2015年12月に、力障連江戸

かいちよう じむきよくちよう ほかやくいん かがた ほんぶ
会長と事務局長、その他役員の方々が本部

なごや しんよこはま こ えどかいちよう
の名古屋から新横浜に来られ、江戸会長の
よ 呼びかけにより横浜オーリーブ代表や力障連

うんえいいん わたし よこはま ちょうかい
の運営員だった私や横浜力聴会メンバーも

すうにんあつ とき よこはまたいかいじっこういんちよう
数人集まり、その時に、横浜大会実行委員会

た あ じっこういんちよう ねが
の立ち上げや実行委員長をお願いされました。

あと いえ だいひよう やまてきょうかいいん
その後、かなの家の代表と山手教会委員の

じむきよく き だいさんちく きょうかいいん あつ
事務局が決まり、第三地区の教会委員も集ま

わたし たいかいじっこういんちよう ひ う
ってくださり、私も大会実行委員長をお引き受

さいしょ たいかいじゅんびかい すうかいひら
けしました。最初に大会準備会を数回開いたあ

ぜんぶ かい じっこういんちよう ひら まいかい
と、全部で19回の実行委員会を開いて、毎回、

せりざわしんぶさま
芹沢神父様のアドバイスをいただきました。



Hiroimi Ushijima

たいかい かかん せいこうがくいん ひろ かいじよう
大会の2日間は、聖光学院の広い会場をお
か ぜんこく あつ かがた
借りでき、全国から集まった方々とゆったり
こうりゆう よ おも
と交流ができて、たいへん良かったと思いま
した。

こんしんかい
懇親会では、ダルクグループのエイサーの
たいこう ひと ひび みな ところ つた
太鼓を打つ人たちの響きが皆の心にも伝わっ
て、心から心へと幸福の輪が広がっていき、
かいじよう かんどう
会場は感動にあふれていました。

たいかい うめむらしきょうさま せりざわしんぶさま
大会ミサは、梅村司教様、芹沢神父様、
いしだしんぶさま はなふさしんぶさま しゅわ ししき
石田神父様、英神父様が手話で司式されて、
いま いちばん よこはま
今までで一番すばらしいミサでした。横浜の
しゅわつうやく かがた どうきょうきょうく
手話通訳の方々もがんばり、東京教区からも



しゅわつうやくしゃ きょうりよく
手話通訳者の協力を
いただき、きょうかいいん
教会委員
かがた
の方々、たくさん
しんと かがた
の信徒の方々、ボ
ーイスカウトなど、
きょうりよく
協力してくださ
すべ かがた ところ
た全ての方々にか
ら おれもう あ
れいもう あ
らお礼申し上げます。
みなさま
皆様、ありがと
うございました。

しゅ かんしゃ
主に感謝

あめ 雨のち晴れ

よこはまたいかいじっこういいんかいじむきょくちよう
横浜大会実行委員会事務局長 横井 圭介 (カ障連役員)

大会が終わり、もうすぐ1か月が経過しようとしていますが、写真を見たり色々な教会の広報紙で大会の記事を見つけるたびに、あの興奮がよみがえってくるような気がしています。

2015年札幌大会が始まる少し前、神奈川の藤沢教会に当時の会長だった宮永さんと一緒に行きました。横浜教区福祉委員会の芹沢神父様に大会の事をお願いしに行くという目的でした。私の中では「これは札幌大会では正式に発表が出来ないなあ」と暗い気持ちでいました。展望も何もあったものではありませんでした。宮永さんとミサと与ったのですが、ミサ後ある家族と会いました。小さな子どもがベビーカー(?)に乗っていましたが、障害がある、しかし素晴らしい表情をした子で、名前をしょうへい君と言いました。私は「カ障連大会というものがあって、それを横浜で開きたいと思って、今日は神父さんにお話をしに来たんです。分からないですがもし大会が開かれることが決まったら、是非参加してくださいね」とお母さんに伝えました。お母さんは「はい、楽しみにしています」と言ってくれました。

それから「準備会」が発足しましたが、梅村司教様の大会開催への正式な認可も受けていない状況であり、本当に大会が開けるのか絶望的な気持ちになったこともしばしばあ

りました。この3年間、雨が降って視界が見えなくなるようなときがままありました。

特に2016年の9月に梅村司教様から正式な許可を受けるまでは、当時の準備会はまさに雨模様だったのではないかと思います。

今年の8月下旬、すでに600名を超える方が参加を申し込んでくださっていましたが、その中である方に連絡を取ることがあったのですが、その方は何とこのしょうへい君のお母さんでした。「私、横井さんに会ったことがあるんです」と切り出され、聞いたらその藤沢であった話が出て来たのです。様々なことで非常に忙しく、まさに心をなくしていた当時の自分でしたが、その電話に涙し、また「頑張ろう」という気持ちが湧いてきたのです。しょうへい君はこの大会の実質初めての申込者だったのです。

大会当日、歌を歌い互いの足を洗う分科会にそのしょうへい君とお母さんが参加してくれました。歌を歌っている中でしょうへい君が泣くこともよくあったんですが、不思議な静けさが広がっていたこと、参加者がそ



Hiroimi Ushijima

のしょうへい君をにここにこしながら見つめ、
関わっていたことが強く心に残りました。

私個人としては、懇親会の琉球太鼓が強く
心に残りました。私の同僚であるラルシュカ
な家の仲間だけではなく職員も気がついた
らその輪に入って踊っていました。私も釣ら
れる様にその輪に入り、踊りましたが、本当
の意味で「神の国がここに今あるんだ、障害
のあるなしではなくて、本当にお祝いする場
にいるんだ」と感じ、心と目頭が非常に熱く
なりました。

またミサも強く心に残りました。梅村司教
様、芹沢神父、石田神父、英神父による手話
ミサは強く感動しました。最後のアーメンハ
レルヤは、まさに会場が一つになっていたと
実感しています。

外に出たら、前日の夜に降った雨が嘘だっ
たかのように、雲一つない青空が広がってい
ました。この3年自体がまさに「雨のち晴れ」
だったのかなと感じました。

この大会準備に当たり、本当に沢山の方向に
ご協力頂きました。会場から近い山手教会
は、毎年恒例のバザー（教会だけではなく



地域の行事として認知されています) を中止
にし、この大会のお手伝いにご尽力頂いたり、
そのほかの教会でも様々な痛みを引き受け、
奉仕者を出して頂きました。

私自身は力不足でしたが、事務局副局長
として高橋さん、そして実行委員会
の皆様が本当に助けて下さいま
した。皆様に出会わなければ、こ
こまで来ることが出来ませんでした。
実行委員会のお一人お一人、
運営部門の皆様、大会を支援して下
さった皆様、大会に参加して下さい
ました。心から御礼を申し上げます。
本当にありがとうございました！



みな かんしゃ 皆に感謝！ かみさま かんしゃ 神様に感謝！

かなざわきょうかい よこはま しみずかついちろう
金沢教会（横浜） 清水勝一郎

わたし よこはま かなざわきょうかいしよぞく しかくしやうがいしゃ
私は横浜の金沢教会所属の視覚障害者で
かなざわきょうかい ゆうじん いっしょ じっこういんかい
す。金沢教会の友人と一緒に実行委員会に
さんか いただ しょうれん
参加させて頂きました。それまで力障連とい
うなまえ し どうしょ たいかい
う名前も知らず、当初は大会のイメージもつ
きませんでした。たいかい ちか
が、大会が近づくにつれて、
けんきんかつどう おうえん
献金活動やチャリティコンサートなどで応援
してくださる大勢の方々に励まされ、頑張ろ
う！と思うようになりました。

わたし じっこういんかい ゆうじん いっしょ
私は実行委員会では、友人と一緒に、
はいふしりやう てんやく おんやくばん じゅんぴ しかくしやうがい
配布資料の点訳・音訳版の準備や視覚障害の
さんかしゃ れんらく たんとう
参加者への連絡などを担当しました。また、
パソコンスキルを活かして、ホームページの
さくせい めいぼ せいり ぶんかかい
作成や、エクセルでの名簿の整理、分科会の
グループ分けなどを、実行委員の皆と協力し
わ じっこういん みな きょうりよく
て行いました。最後の1 か月は毎日夜遅くま
での作業で大変でしたが、良い大会にしたい
という一心で、力を合わせて頑張りました。

たいかいとうじつ おおぜい さんかしゃ よろこ み
大会当日、大勢の参加者の喜びに満ちた
ようす むね いっぱい
様子に、胸が一杯になりました。そして、2
かめ さいご
日目のミサの最後に「アーメンハレルヤ」を
みな うた ことば い あらわ
皆で歌ったとき、言葉では言い表せないくら
いほんとう すば いったいかん てん くに じつげん
い本当に素晴らしい一体感で、天の国が実現
しているように感じました。

たいかい つう ひと で あ
大会を通じてたくさんの人と出会いまし
た。たきょうかい しかくしやうがい ゆうじん で き
た。他教会に視覚障害の友人も出来ました。
そして、いっばんでき しょうがい よ げんしょう
も、神様が愛の御業をお示しになるためのも
のなのかもしれない、と気づきました。この
ようす すば たいかい じゅんぴ たずさ
のような素晴らしい大会の準備に携われたこ
と、じっこういんかい みな いっしょ がんば
実行委員会の皆と一緒に頑張ったことは、
わたし わたし おも で いっしょう ほこ
私にとってかけがえのない思い出、一生の誇
りです。

わたし たいかい みちび かみさま
私をこの大会に導いてくださった神様に
かんしゃ
感謝しています。



しょうれんぜんこくたいかい 力障連全国大会

やまできょうかい よこはま さかぐち いくこ そうごうしかいたんとう
山手教会 (横浜) 坂口 育子 (総合司会担当)

ねんいじょうまえ あんない にほん
1年以上前からご案内をしてきた日本カト
リック障害者連絡協議会横浜全国大会が10
がつ しょうがいしゃれんらくきょうぎかいよこはまぜんこくたいかい
月20、21日に聖光学院中学校・高等学校で
かいさい きた ほっかいどう みなみ きゅうしゅう おきなわ
開催され、北は北海道から南は九州、沖縄
までぜんこく めいじょう かた さんか
まで全国から750名以上の方が参加されまし
た。

くるまいす かた ねぎしえき がっこうかん そうげい
車椅子の方には根岸駅一学校間の送迎を
ようい しかくしょうがい かた じぜん てんやく
用意したり、視覚障害の方には事前に点訳、
おんやく たいかいしりょう おく
音訳された大会資料を送ることができました。

たいかい だい にちめ しょうれんそうかい
大会プログラムは第1日目に力障連総会、
きちょうこうえん ぶんかかい こんしんかい かめ
基調講演、分科会、懇親会、2日目に
ぜんたいかい しょうれん ほっぴょう も
全体会、力障連アンケート発表、ミサと盛り
だくさんのないよう
内容でした。またピロティでは
しょうがいしゃだんたい きょうかい ほんばい
障害者団体や教会の販売もあり、Tシャツ・
なごたいかい こうにゅう
バッグ等大会のオリジナルグッズを購入する
こともでき賑わいました。

きちょうこうえん あさか ゆうほ むか
基調講演には安積遊歩さんをお迎えし
ました。大会のテーマは「互いの弱さを
みとめあひ ともに い きよう」です。2016
ねん さがみはらしつくい えん お
年に相模原市津久井やまゆり園で起き
たせんごさいだいきぼ さつじんじけん ほんにん
た戦後最大規模の殺人事件の犯人は
「じゅうどしんしんしょうがいしゃ よ なか やく た
「重度心身障害者は世の中の役に立たない
ふこう ひと き ほんこう
不幸な人」と決めつけて犯行におよびまし
た。せいさんせい こうりつせい さいゆうせん きょうしゃ
た。生産性や効率性が最優先され、強者の
ろんり はば き しゃかい なか あさか
論理が幅を利かせている社会の中で、安積さ
んのこうえん ゆうせいしそう む つづ
講演テーマ「優生思想に向かい続けて
しんたい こせい よろこ い
～身体の個性を喜びとして生きる～」はびっ
たりでした。



あさか ほね お こつけいせいふ
安積さんは骨がもろく折れやすい骨形成不
ぜんしょう しょうがい も にほん
全症という障害を持ちながら日本、そして
せかい と まわ だれ じんけん そんちよう
世界を飛び回り、誰もが人権を尊重され、み
んながそんげん い しゃかい
んが尊厳をもって生きていける社会をつく
るためのきぼう
希望にあふれるメッセージを届けて
くださっています。

だれ だれ すぐ だれ い
「誰かが誰かより優れていたり、誰かが言
うことをずっと黙って聞き続けなければいけ
ないのはおかしい。おかしいと思うことに声
あ を上げていくことが大切」と力説されまし
た。ふくしまう あさか ふくしまえき
た。福島生まれの安積さんがJR福島駅にエ
レベーターがな ないのはおかしい うった つづ
レベーターが設置されたことを例に「あ
きらめない」たいせつ かた
大切さを語られました。やまゆ
りえん じけん ふ ひと
り園の事件にも触れ、「どんな人もかけがえ
のないそんざい たようせい い
存在である。多様性を生きようとする
しせい みと あ じぶん い しゃかい
姿勢を認め合い、自分らしく生きられる社会
でありたい」との ことば
述べられました。後半にはア
フリカでおこな ぎゃくたい ほかがい ふくしま
フリカで行われている虐待や迫害、福島
げんばつじこうたいへん お
原発事故等大変なことが起こっていることを
つた つづ あつ
伝え続けていきたいと熱きメッセージをいた

だきました。

基調講演後、9つの分科会にわかれ、分かち合いが行われました。9つのテーマは「他の障害と出会ってみよう」「苦労や辛さを語り合おう」「共に歌い、互いの足を洗おう」「排除のない多様性社会を目指して」「隣人になることについて考えよう」「いやしの場面を分かち合おう」「生と死を考えよう」「教会は障害とどう歩むか」「フリートーク・フリータイム」です。

それぞれが実りある分かち合いの場を持っていました。懇親会にも沢山の方が参加され、楽しい会話が弾みました。ダルクによる琉球太鼓には踊りに加わる方々も多く、前田枢機卿様も太鼓をたたき会場が笑顔に溢れました。

2日目は梅村司教様による手話ミサでめぐくりとなりました。入祭の歌「ガリラヤの風かおる丘で」が流れると聴覚障害の方々が手話で歌い始めました。第1朗読は手話朗読、第2朗読は点字朗読、共同祈願は 전국から4つの祈りが唱えられました。派遣



の歌「アーメンハレルヤ」は手話が会場全体に広がり、歌詞「せかいのみんなきょうだいさ…主にむかうところでひとつになって分かち合おう…あいはいとつみんなのもの」が実現している瞬間を感じる事ができました。

閉会式では江戸カ障連会長より次の開催地が「長崎」と発表され、今大会の久保実行委員長と長崎からいらっしゃった神父様はじめ皆様が握手を交わし、引き継ぎをされ、大会が神様の恵みのもとお開きとなりました。

お互い障害を認め合い、共に生きていくことこそ愛を証すること、キリストのうちに1つになることを意味しているとミサの説教の



中で話された前田枢機卿様がお詠

みになった一句

「十月や 共に生きるわ カ障連」

社会の願いである「共に生きるわ」

これこそが世界の「わ」、平和の

「わ」となり、みんながつながり

ながさきたいかいひきつ

長崎大会に引き継がれていくこと

を祈りたいと思います。

第13回 日本力障連横浜全国大会に参加して

くぼただお なごやきょうく
久保田忠郎 (名古屋教区)

2018年10月20日(土)から21日(日)の2日にわたって、日本カトリック障害者連絡協議会横浜全国大会が、聖光学院中学校高等学校で開催された。

私は兄・健一郎(肢体)と一緒に前日19日(金)から出かけた。幸い交通の便はAJUからマイクロバスを出していただき、名古屋からの参加者約30名の内20名がこれを利用、当方も大変お世話になり助かりました。私の役割の一つは兄の付き添い、実際は移動時に車椅子を押すこと、食事、トイレ・風呂の支援、その他買い物でした。二つ目は、皆と仲良く楽しく過ごせるようにまた無事・安全に帰れるよう、大きな奉仕は期待薄であるができる範囲で努めることです。

昔に遡るが、30年前の1988年7月に横浜全国大会が開催され、兄と一緒に参加したことがある。当時の案内状や関連の資料を繰っていたら、山田昭義さんが会長で活躍されていた。テーマは「障害の意味を問う—ともに生きる—」という内容で話し合われた。ご参考までに以下に抜粋した。

1996年に第1回福音宣教全国会議が開催され(NICE)、福音宣教の実践に際してカトリック信者の生活と信仰の遊離、そして教会の日本社会からの遊離が課題となった。そこで司教団は、福音宣教を考えるに当たり、生活から信仰を見直していく方向、即ち日本

の社会の現実から福音宣教の在り方を考えていく方向に舵を切った。こうして、「開かれた教会づくり」が始動した。

これを受けて、当時の大会では「信者をはじめとする教会組織への働きかけ」と題して次の活動方針が提案、採択された。(障害者連絡協議会・活動方針より)

私たちは、全てのキリスト教として宣教の一端を担う一人である。これが信仰活動の基本的姿勢です。しかし、極めて当たり前のことが、信者が宣教を語るとき、私たちが障害者はいつの間にか除外されているという体験をもっています。この事実を、まず教会が認識してもらうべきであり、そのための働きかけをしなければなりません。私たちは、単なる同情やいつくしみの対象者ではない。私たちが声高に訴えることも必要でしょう。しかし、本当の理解を得るためには、各自がおの役割を明確に自覚し行動することで、一人では困難でも仲間と力を合わせれば勇気ももてます。本会の存在意義は、仲間へ勇気を与えることにあります。

私たちが体験を活かし、宣教の一端を担う時こそ、弱い立場に置かれている人々を温かく受け入れる共同体ができるのではないでしょうか。教会組織へ私たちの存在を正しく認識してもらうために働きかけたいと思います。そのためにも、教会内で障害を持つ人、

びょうき ひと じったいちようさ ねが
病気の人の実態調査をお願いしたい。

とうじ せんご すうねんた
当時は、戦後40数年経っていたが、
こうどせいちようか しょうがいしゃふくし めざ うんどう
高度成長下で障害者福祉を目指す運動・
かつどう さか じき どうほうしょぞく
活動が盛んだった。この時期、当方所属の
あいちけん おかざききょうかい せいどう かいちく しょうがいしゃ
愛知県・岡崎教会の聖堂が改築され障害者
のトイレが設置された。また、あに いこう
兄の意向も
く と おかざきし しょうがいしゃ はたら しせつ つく
汲み取り岡崎市で障害者が働く施設を作ろ
うと、めい さんどうしゃ とも しきんあつ
30名ほどの賛同者と共に資金集め
にほんそう むにんか さぎようじょ いじ
に奔走し無認可の作業所を維持しながら
しゃかいふくしほうじんか めざ かつどう すず
社会福祉法人化を目指してボラ活動を進めて
いた。かんがいぶか
いた。感慨深い。

ねん へ いま こうれいか しょうしか
あれから30年を経た今、高齢化、少子化
じんこうげんしょう かそく じだい しょうがいしゃさ
や人口減少が加速する時代となり、障害者差
べつかいしょうほう せいいてい じゅうぶん い ぶぶん
別解消法が制定され、十分とは言えない部分
があるがしせつ せいび
施設が整備され、またまちな
アフリー化が進む中で、「互いの弱さを認め
あ とも い けんきよ おだ
合い、共に生きよう」という謙虚で穏やかな
じかく きようせい ゆたか しゃかい じつげん
自覚のもと、共生という豊かな社会の実現を
めざ かが たいかい かいさい
目指すテーマを掲げて大会が開催された。

そうかい しょうれん けっか
まず総会では、力障連アンケート結果に
ほうこく にほんぜんこく
ついて報告があった。このような日本全国
きょうかい たい しょうがいしゃ じったいちようさほうこく
の教会に対する障害者の実態調査報告はは
じめてで、ぐたいてき すうちか ひょうか
具体的に数値化して評価する
ところ たいへん ぜんしん しょうがいべつにんずう
試みは大変な前進である。障害別人数で
せいしんしょうがい ひと したい おお おどろ
は、精神障害の人が肢体より多いのは驚き
である。しょうがいしゃ はいりよ せつびめん
障害者への配慮では、設備面はト
イレやスロープはある程度完備してきたが、
そうげいたいせい てんじ しゅわ よそう すく
送迎体制、点字や手話は予想どおり少なくて
これからのかだい ひと じみち あきら
課題だ。一つひとつ地道に諦めず



と く ひつよう
取り組んでいく必要がある。

あさか きちようこうえん しゃかい ただ
安積さんの基調講演では、社会を正す
しゃかいうんどう み どう ちかほどう
社会運動に身を投じ、地下歩道にエレベ
ーターの設置を実現したことや、ゆうせいほごほう
優生保護法、
ふくしまげんばつじこ つく い えん じけん
福島原発事故、津久井やまゆり園の事件では、
じんけんようご いのち そんげんじゆんしゅ りふじん
人権擁護、命の尊厳遵守、そして理不尽な
さべつはんたい きようちよう きようせい
差別反対を強調された。また、共生について
「キリストに向かう子供に止める言葉はない。
てんごく
天国にむかうものである」そして「迷惑と言
われることが迷惑である。迷惑は助け合うこ
とをそし はな たが ぶんだん
阻止するもの」と話され、お互いを分断
することば けいしょう な
言葉への警鐘として投げかけられた。こ
れを受け入れどのように処していくのか、
ひとり あた かだい
一人ひとりに与えられた課題である。まずは、
ゆうき だ あ かみさま み す
勇気を出して当たっていけば神様は見捨てる
ことはない。きっといっしょについておうえん
ださると信じたい。

むかし だて かつ
昔、伊達よしえさんという方がおられた。
かた しょうがいしゃ さきが
この方は、障害者のつどいの先駆けとなった
かた ねん きやうと しょうがいしゃ しんじんかい
方で、1956年に京都で障害者の信心会とし
こひつじかい ほっき わたし きやうだい
て「子羊会」を発起された。私たち兄弟も
どうじきやうと す えん ほんかい
当時京都に住んでいたのが縁あって本会に
にゆうかい せわ
入会しお世話になった。もちろんねんまえ
よこはまたいかい げんき すがた あ
横浜大会では元気なお姿でお会いしたが、そ
ごきてん はなし
の後帰天された。これらの話をボランティア
かた も だ ぐうぜん こひつじかい かが
の方に持ち出したら、偶然にも子羊会に関わ
った方がおられ懐かしく話が弾んだ。

たいかい さんか あに よろこ
この大会に参加して兄が喜んだのは、まず
ホテルの設備でせつび しんしつ
寝室とトイレ・バスルームが
にぶん ひろ つか がって よ
二分されており、広くて使い勝手が良かつ
たことである。また、ボランティアの方が
やさ しんせつ たいおう
優しく親切に対応してくださったことです。



交流会の時は、テーブルにゆっくり向かうことができ、またこれと思う美味しそうな品々を皿に盛っていただいた。

車椅子で移動するときは、広い学校なのでエレベーターの乗降口を間違えやすいが、いつも丁寧に案内していただいた。本当に心地の良いすばらしいおもてなし有難うございました。

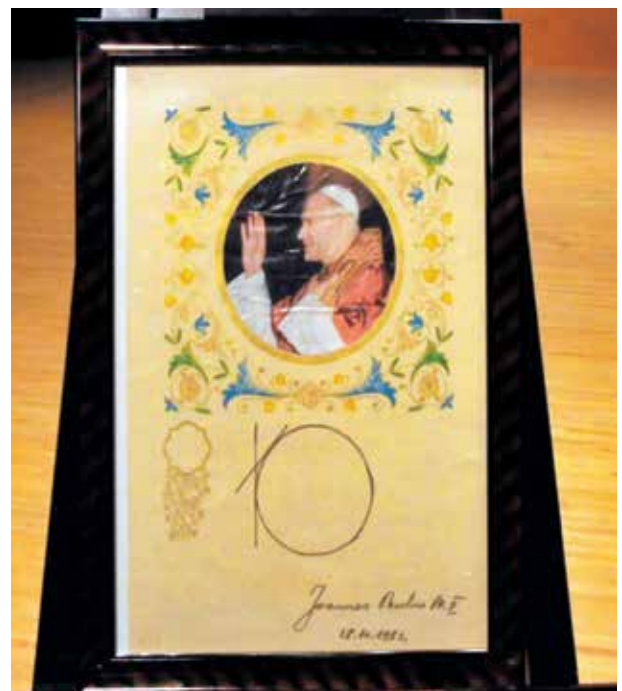
本大会が希望の湧く楽しいつどいになりましたことを、多くの関係者と神様に感謝いたします。また、次の大会場所は長崎に決まりました。本会がますます実りある会に発展されんことをお祈り申し上げます。

総会会場から力障連への想いや 意見の発言の一部の紹介

御礼とお願いを申し上げます。御礼はこの横浜大会総会にあたって点字資料を前もって送っていただいたことに感謝したい。前もって読ませていただき、全体の流れが分かり、受け身ではなく積極的に参加しようという意識が高まった。お願いについて。力障連が全国規模で運動されていることに感動している。



神学校への要望書でも手話や点字をカリキュラムに入れてほしいと記載されており大変嬉しい。これは前田枢機卿へのお願いにもなるが、力障連を認識されていない神父もいる。アンケートの回収率が4割に満たなかった。それは非常に残念だった。力障連の立ち位置は、神父やカトリックの組織をつらしあげるのではなく、共に福音を述べ伝え歩むという活動、そのことを神父にも認識していただきたい。名古屋教区の集いの時に、ある神父から「司教の依頼があったからしかたなくやるんだ」という声を耳にして非常に残念だった。(後略)



会長からお願いしたいと思います。
江戸会長よろしく願いいたします。
江戸／それでは、次の全国大会の開
催地を発表します。
次は、長崎教区にお願いしたいと思っ
ています。



よこはまたいかいくほじっこういんちよう
横浜大会久保実行委員長から

ながさききょうく だいひょう かみさきしんぶさま あくしゆ
長崎教区を代表して紙崎神父様へ握手でバトンタッチ

にほん しょうがいしゃれんらくきょうぎかい だい かいそうかいほうこく
日本カトリック障害者連絡協議会 第13回総会報告

だい き かつどうけいかく
第13期の活動計画

ぜんき かつどう けいしゅう ふか しんどう すいしん
 前期の活動を継承し、さらに深く浸透していくよう、推進していきます。

かだい 課題	かつどうけいかく 活動計画
① ぜんこく しょうがい なかま し ① 全国の障害のある仲間を知る	* かめいだんたい かくだい そうご りかい ふか かつせいか * 加盟団体の拡大とともに相互の理解を深め活性化を はか 諮る * アンケート内容に基づき、できることを模索していく
② しょうがいしゃさべつかいしょうほう てび など ② 障害者差別解消法の手引き等 の作成	* ねん せこう しょうがいしゃさべつかいしょうほう しゃかい * 2016年に施行された「障害者差別解消法」の社会へ の浸透と理解を求めて、障害のあるなしにかかわらず、 しんどう りかい もと しょうがい 全ての命が大切にされるよう、この法律が社会に浸透 すべ いのち たいせつ ほうりつ しゃかい しんどう していくよう努めたい。

だい き かいけいよさん
第13期 会計予算

ねん がつ にち ねん がつ にち
 2018年4月1日から2021年3月31日

しゅう にゅう 収入		し しゅつ 支出		
かもく 科目	よさん 予算	かもく 科目	よさん 予算	
ぜんねんどくりこしきん 前年度繰越金	1,433,842	いんさつひ 印刷費	1,200,000	かいほう ねん かいほうこう ほか 会報（年3回発行）他
かいひ 会費	1,600,000	かいぎひ 会議費	1,300,000	やくいんかい ねん かいかいさい ほか 役員会（年3回開催）他
きふ 寄付	3,500,000	こうつうひ 交通費	1,900,000	かめいだんたいやくいんかいさんかこうつうひ 加盟団体役員会参加交通費
りし 利子	100	つうしんひ 通信費	1,600,000	かいほうそうりょう ほか 会報送料 他
ざっしゅうにゅう 雑収入	10,000	じむしょうもうひんひ 事務消耗品費	20,000	
しょうれん ささ かい カ障連を支える会	2,400,00	じぎょうひ 事業費	1,500,000	かめいだんたいこうかんかいかいさい 加盟団体交換会開催 しょうがいしゃさべつかいしょうほうてびさくせいひ 障害者差別解消法手引作成費
		そうかいつみたてきん 総会積立金	1,200,000	じかいかいさいち 次回開催地へ
		ぶんたんきん 分担金	30,000	ちゅうおうきょうぎかい ねんぶん 中央協議会へ（3年分）
		ホームページ費	60,000	
		ざつひ 雑費	50,000	
		よびひ 予備費	83,942	
ごうけい 合計	8,943,942	ごうけい 合計	8,943,942	

だい きやくいん
第13期役員

こもんしきょう まえだまんようすうききょう
顧問司教：前田万葉枢機卿

きょうりよくしさいはなふさりゅういちろう
協力司祭：英隆 一朗

かい ちょう めい えどとおる
会 長 1名：江戸徹

ふくかいちょう めい たなかみのる かいのじゅんこ
副 会 長 2名：田中実・海野淳子

じむきょくちょう めい こいけまさお
事務局 長 1名：小池政男

しょ き めい よこいけいすけ
書 記 1名：横井圭介

かい けい めい むらかみ
会 計 1名：村上かつ

うんえいいん めい おのでらざとし かたやまこういち しのはらみえこ まつだとしあき しらやなぎざとし しん
運営委員 5名：小野寺哲、片山功一、篠原三恵子、松田俊明、白柳聡（新）

かん じ めい たかはしひではる きくちひではる しん
監 事 2名：高橋秀治、菊地秀治（新）



ていせい わ
訂正とお詫び

よこはまたいかいし
横浜大会誌32ページ「ペトロ岐部と187殉教者の
列福式」は、正しくは2008年11月24日でした。大会参加
された方々、お手元の大会資料の訂正をお願いいたします。
間違いご指摘くださいました方、ありがとうございました。

だい き だい かいやくいんかいほうこく
第13期 第1回役員会報告

にちじ ねん がつ にち ど じ
日時：2018年11月17日（土）13時～
18日（日）13時
ばしよ なんざんがくえんけんしゅう な ご や
場所：南山学園研修センター（名古屋）

よこはまたいかい
①横浜大会について

よこはまたいかいふくじつこういんちょうたかはししんべい
横浜大会副実行委員長高橋新平さんから
約2年間の準備状況を報告していただく。
「一粒会、共に歩む会などの大会経験者と共
に効率よく準備してきた。司教様が日程会場

き おお
を決めてくださったことも大きかった。キャ
ラバン、コンサート、クリスマス献金の呼び
かけ、ボランティアの研修会、講演会などき
め細かく動いたことの大会への結果が出たと
おも ぜんこく さんか ひと おお
思う。全国から参加した人たちから、多くの
感謝と喜びのメッセージを頂いたことや大会
つう しょうがいしゃ ひと せつしよく たいかい
を通じて障害者の人たちとの接触や大会の
ないよう すばらしさ う おお しえんしゃ
内容の素晴らしさを受けて多くの支援者から
しょうれん たいかい よこはま いただ よ
力障連の大会を横浜でやって頂いて良かっ
た。そして大きな感動を頂く事が出来たと多
よろこ こえ あ よこはま かいさい いただ
くの喜びの声が上がり、横浜で開催して頂き
よ ほうこく
良かったと報告をします。」

じ かい ながさきたいかい む たいおうほう
②次回の長崎大会に向けての対応法

③次々回の大会開催地の検討

④13期活動計画の具体策の検討

- ・全国の障害のある仲間を知る…調査書を作成し各教区に送る。
- ・アンケート結果に基づき力障連としてできることを模索していく。
- ・「障害者差別解消法」の手引書とパンフ作成をはかり、日本司教団の社会司教委員会名で発行できるように交渉する。

⑤次回役員会

日程：2019年3月22日(金)～24日(日)

場所：聖公会ナザレ修女会(東京吉祥寺)

加盟団体意見交換会：3月23日(土)

13期活動方針計画を基に話し合いを進める。

1月末までには加盟団体に案内発送。

各団体には事前に意見をまとめて報告をお願い

したい。

⑥今後の役員会日程

*日程：2019年6月29日(土)～30日(日)

場所：宝塚黙想の家(大阪)

*日程：11月23日(土)～24日(日)

場所：南山学園研修センター(名古屋)

研修セミナーあり

⑦機関紙「わ」発行予定

86号 2019年4～5月予定

87号 2019年7月予定

88号 2019年11月予定

本文イラスト…横浜大会誌より転載

写真…土方芳人氏(山手教会)撮影

ありがとうございました



日本カトリック障害者連絡協議会会報「わ」

事務局：〒466-0037 名古屋市昭和区恵方町2-15

カトリック名古屋教区社会福祉委員会室内

Tel：052-852-1426 fax：052-841-2225

郵便局振替口座番号：00100-7-31254 (同封の振込用紙をご利用ください)

会費：年間1口 1,000円(団体 10口以上 個人 1口以上)

加入者名：日本カトリック障害者連絡協議会